

科目一覧

[発行日：2021/4/1] 最新版のシラバスは、法政大学 Web シラバス (<https://syllabus.hosei.ac.jp/>) で確認してください。

【X1501】	日本語論文作成 A I	[上品 和馬]	春学期授業/Spring	1
【X1502】	日本語論文作成 A II	[井波 真弓]	春学期授業/Spring	2
【X1505】	日本語論文作成 B I	[上品 和馬]	春学期授業/Spring	3
【X1506】	日本語論文作成 B II	[井波 真弓]	春学期授業/Spring	4

LANj500S1

日本語論文作成 A I

上品 和馬

サブタイトル：中級レベル

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 1/Tue.1 | キャンパス：市ヶ谷

備考（履修条件等）：

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このクラスは、大学院で論文（修士）を執筆するために必要なアカデミックな日本語の力を向上させることを目的とします。このクラスの対象者は日本語の文章作成の経験があまりなく、まずはアカデミック・ライティングの基礎固めを希望している方です（JLPT の N2 以上）。

授業では、毎回、①論文を書くための表現を学び、②活動を行います。活動としては「書く活動」（1,500 字程度の小論文を書く）と「話す活動」（アカデミックなプレゼンテーションと質疑応答）を行います。

※第 1 回目の授業で、レベルチェックと面談を実施し、2 回目から授業が始まります。受講希望の方は、第 1 回目、第 2 回目の授業に必ず出席してください。

【到達目標】

受講者は、以下のことをめざします。

・論文を書くための基本的な表現を用いて、アカデミックな文章が書けるようになる。

・問いを立て、日本語でプレゼンテーションが論理的にできるようになる。

・論文の基本構造を学び、論文を書くためにはどのように発想をしなければならぬかがわかるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

進め方と方法は以下の通りです。

学期の前半では、書く活動（1500 字程度の小論文執筆）を行います。学期の後半では、話す活動（プレゼンテーションと質疑応答）を行います。前半と後半の両活動を中間・期末テストの評価対象とします。それ以外にも、小テストや宿題があります。テキストは、指定のものを用いますが、それ以外にも受講者のレベルに応じて、別途、配布資料で指導します。

課題等の提出・フィードバックは「Google Classroom」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	レベルチェック	課題作文、面接
2	論文の基本と活動	基本（論文とは何かを考える、論文の基本形を学ぶ）、活動（小論文のテーマを考える、宿題：テーマの提出）
3	論文の表現と活動	表現（表記のしかた、文体と書きことば）、活動（テーマを決める、アウトラインの書き方、宿題：アウトラインの提出）
4	論文の表現と活動	表現（段落に分ける）、活動（アウトラインのフィードバック、小論文を書く、宿題：小論文の提出）
5	論文の表現と活動	表現（「は」と「が」、テーマを述べる）
6	論文の表現と活動	表現（理由・経過を述べる、定義をする）、活動（小論文のフィードバックとリライト、宿題：リライトの提出）
7	論文の表現と活動	表現（判明していることを述べる）、活動（プレゼンテーションのテーマを考える、宿題：テーマの提出）
8	論文の表現と活動	表現（問題点を述べる）、活動（プレゼンテーションのテーマのフィードバック、パワーポイントの作成、宿題：パワーポイントの提出）
9	論文の表現と活動	表現（引用する、解決策を述べる）、活動（パワーポイントのフィードバックとリライト）
10	口頭発表	活動（プレゼンテーションのリハーサルとフィードバック）
11	口頭発表	活動（プレゼンテーションのリハーサルとフィードバック）
12	論文の表現と活動	表現（手順を述べる、指示詞を使う）
13	口頭発表	活動（プレゼンテーション本番、評価）
14	口頭発表	活動（プレゼンテーション本番、評価、ふりかえりと総まとめ）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

アカデミック・ジャパニーズ研究会『改訂版 大学・大学院留学生の日本語② 作文編』（2015）アルク（1,600 円＋税）978-4757426320

※テキスト以外にも、配布資料を用います。

【参考書】

二通信子ほか『留学生と日本人学生のためのレポート・論文表現ハンドブック』東京大学出版、2009 年。

石黒圭『この 1 冊できちんと書ける 論文・レポートの基本』日本実業出版社、2012 年。

【成績評価の方法と基準】

小テスト・宿題：40 %

中間テスト（小論文）・期末テスト（プレゼンテーション）：50 %

授業参加度：10 %

※欠席が 4 回以上の場合、単位は出ません。

※上記の成績評価の基準については、授業の進行状況などに基づいて、適宜変更する可能性があります。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン

【その他の重要事項】

*授業の 1 週目、2 週目に出席してください。3 週目に初めて来る学生は、原則クラスを取ることができません。

【Outline and objectives】

This class aims to improve the academic Japanese skills needed to write a dissertation (master's thesis) at graduate school.

This class is for those who have little experience in writing Japanese and hope to learn the basics of academic writing. Students are required to have passed the Japanese Language Proficiency Test (JLPT) N2 or above.

In each lesson, students learn the expressions for writing a dissertation and carry out activities. The first half of the semester focuses on “writing activities” (writing essays of about 1,500 characters), while “speaking activities” (presentation and Q & A) are conducted during the second half of the semester.

* Level check and interview will be conducted in the first class. The class starts from the second class. Therefore, it is mandatory for students to attend the first and second classes.

LANj500S1

日本語論文作成 A II

井波 真弓

サブタイトル：中級レベル

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 1/Wed.1 | キャンパス：市ヶ谷

備考（履修条件等）：

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このクラスは、大学院で論文（修士）を執筆するために必要なアカデミックな日本語の力を向上させることを目的とします。このクラスの対象者は日本語の文章作成の経験があまりなく、まずはアカデミック・ライティングの基礎固めを希望している方です（JLPT の N2 以上）。

授業では、毎回、①論文を書くための表現を学び、②活動を行います。活動としては「書く活動」（1,500 字程度の小論文を書く）と「話す活動」（アカデミックなプレゼンテーションと質疑応答）を行います。

※第 1 回目の授業で、レベルチェックと面談を実施し、2 回目から授業が始まります。受講希望の方は、第 1 回目、第 2 回目の授業に必ず出席してください。

【到達目標】

受講者は、以下のことをめざします。

・論文を書くための基本的な表現を用いて、アカデミックな文章が書けるようになる。

・問いを立て、日本語でプレゼンテーションが論理的にできるようになる。

・論文の基本構造を学び、論文を書くためにはどのように発想をしなければならないかがわかるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

学期の前半では、書く活動（1500 字程度の小論文執筆）を行います。学期の後半では、話す活動（プレゼンテーションと質疑応答）を行います。前半と後半の両活動を中間・期末テストの評価対象とします。それ以外にも、小テストや宿題があります。テキストは、指定のものをしますが、それ以外にも受講者のレベルに応じて、別途、配布資料で指導します。

課題等の提出・フィードバックは「Google Classroom」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	課題作文と面接	レベルチェック
2	論文作成の基礎・練習 1	論文作成に必要な基本事項
3	論文作成の基礎・練習 2	テーマ、理由、経過を述べる
4	論文作成の基礎・練習 3	定義をする 判明していることを述べる
5	論文作成の基礎・練習 4	問題点、解決策を述べる
6	論文作成の基礎・練習 5	手順を述べる 指示詞を使う
7	論文作成の基礎・練習 6	引用する
8	各自の研究論文 1	序論 1
9	各自の研究論文 2	序論 2
10	各自の研究論文 3	本論 1
11	各自の研究論文 4	本論 2
12	各自の研究論文 5	結論 1
13	各自の研究論文 6	結論 2
14	発表・評価	発表・評価 研究論文のまとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

論文の執筆本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

アカデミック・ジャパニーズ研究会『改訂版 大学・大学院留学生の日本語② 作文編』（2015）アルク（1,600 円+税）978-4757426320

【参考書】

友松悦子『小論文への 12 のステップ』（スリーエーネットワーク）

二通信子『留学生のための論理的な文章の書き方』（スリーエーネットワーク）

二通信子『留学生と日本人学生のためのレポート・論文表現ハンドブック』（東京大学出版）

【成績評価の方法と基準】

授業参加度:20%

課題作文の提出率と充実度:20%

各自の小論文 40%

最終プレゼンテーション 20%

*欠席を 4 回以上すると単位は出ません。

【学生の意見等からの気づき】

アンケートは実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン

【その他の重要事項】

*授業の 1 週目、2 週目に出席してください。3 週目に初めて来る学生は、原則クラスを取ることができません。

【Outline and objectives】

The purpose of this class is to enhance the academic Japanese ability for writing a master's thesis. The subjects of this class are those who have little experience in writing Japanese and want to solidify the basics of academic writing (JLPT N2 or higher).

In each class, you learn the expressions for writing a dissertation and carry out activities. Activities include "writing" (writing an essay about 1,500 characters) and "speaking" (academic presentation and Q & A).

* Level check and interview are conducted in the first lesson, and the lesson starts from the second class. Students wishing to register to the class must attend the first and second lessons.

LANj500S1

日本語論文作成 B I

上品 和馬

サブタイトル：上級レベル

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 2/Tue.2 | キャンパス：市ヶ谷

備考（履修条件等）：

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このクラスは、大学院で論文（修士・博士）を執筆するために必要なアカデミックな日本語の力を向上させることを目的とします。このクラスの対象とする学生は、すでにアカデミック・ライティングの基礎力があり、さらにすでにレポートや小論文のライティングの経験がある方です（原則として日本語能力試験（JLPT）のN1合格者とします）。

授業では、毎回、①論文を書くための表現を学び、②活動を行います。活動としては、学期の前半に「話す活動」（自分の論文の研究計画のプレゼンテーションと質疑応答）を行い、学期の後半に「書く活動」（4,000 字程度の論文形式で、自分の論文の概要を書く）を行います。

※第 1 回目の授業で、レベルチェックと面談を実施し、2 回目から授業が始まります。受講希望の方は、第 1 回目、第 2 回目の授業に必ず出席してください。

【到達目標】

受講者は、以下のことをめざします。

- ・日本語で、研究計画のプレゼンテーションがきちんとできるようになる。
- ・論文の序章・本論・結論の各構成要素を学び、適切な論文表現を用いて、自分の論文の概要が書けるようになる。
- ・論文執筆のために、自分が収集しなければならない資料や情報が何なのかを考えられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

進め方と方法は以下の通りです。

学期の前半では、話す活動（自分の論文の研究計画をプレゼンテーションする）を行います。学期の後半では、書く活動（4,000 字程度の論文形式で、自分の論文の概要を書く）を行います。前半と後半の両活動を中間・期末テストの評価対象とします。それ以外にも、小テストや宿題があります。テキストは、指定のものを用いますが、それ以外にも受講者のレベルに応じて、別途、配布資料で指導します。

課題等の提出・フィードバックは「Google Classroom」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	レベルチェック	課題作文、面接
2	論文の基本	論文とは何かを考える、論文の基本形を学ぶ、論文的発想のしかた、文体の復習
3	論文の表現と活動	表現（序論：課題の提示、目的の提示）、活動（自分の論文の構想を書く）
4	論文の表現と活動	表現（結論：結論の提示）、活動（自分の論文の構想のフィードバック、アウトライン（序論・結論）を書く、宿題：アウトラインの提出）
5	論文の表現と活動	表現（本論：定義と分類）、活動（アウトラインのフィードバック、アウトラインのパワーポイント作成、宿題：パワーポイントの提出）
6	論文の表現と活動	表現（本論：図表の提示）、活動（パワーポイントのフィードバック）
7	口頭発表	活動（プレゼンテーション本番、評価）
8	口頭発表	活動（プレゼンテーション本番、評価）
9	論文の表現と活動	表現（本論：変化の形容）、活動（アウトラインの書き方、宿題：アウトラインの提出）
10	論文の表現と活動	表現（本論：対比と比較）、活動（アウトラインのフィードバック、宿題：概要の提出）
11	論文の表現と活動	表現（本論：原因の考察、列挙）
12	論文の表現と活動	表現（本論：引用）
13	論文の表現と活動	表現（本論：同意と反論、帰結）、活動（概要のフィードバック、リライト、宿題：概要のリライト）
14	論文の表現	表現（総まとめ）、ふりかえり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

アカデミック・ジャパニーズ研究会『改訂版 大学・大学院留学生の日本語④ 論文作成編』（2015）アルク（1,800 円＋税）978-4757426344
※テキスト以外にも、配布資料を用います。

【参考書】

二通信子ほか『留学生と日本人学生のためのレポート・論文表現ハンドブック』東京大学出版、2009 年。

戸田山和久『新版 論文の教室』NHK 出版、2012 年。

吉岡友治『シカゴ・スタイルに学ぶ 論理的に考え、書く技術』草思社、2015 年。

上野千鶴子『情報生産者になる』筑摩書房、2018 年。

【成績評価の方法と基準】

小テスト・宿題：40 %

中間テスト（論文の研究計画のプレゼンテーション）・期末テスト（論文の概要）：50 %

授業参加度：10 %

※欠席が 4 回以上の場合、単位は出ません。

※対面授業となった場合、あるいは、オンライン授業となった場合、それぞれの場合に応じて、上記の成績評価の基準については、授業の進行状況などに基づいて、適宜変更する可能性があります。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン

【その他の重要事項】

*授業の 1 週目、2 週目に出席してください。3 週目に初めて来る学生は、原則クラスを取ることができません。

【Outline and objectives】

This class aims to improve the academic Japanese skills needed to write dissertations (master's theses and doctoral dissertations) at graduate school.

This class is oriented for students who already have the basics of academic writing and have already written reports and essays in the past experience. In principle, participants must have passed the Japanese Language Proficiency Test (JLPT) N1.

In the each lesson, students learn the expressions for writing a dissertation and carry out activities.

The first half of the semester focuses on "speaking activities" (presentation of research thesis of your dissertation), while "summary writing activities (about 4,000 characters)" will be conducted during the second half of the semester.

* Level check and interview will be conducted in the first class. The class starts from the second class. Therefore, it is mandatory for students to attend the first and second classes.

LANj500S1

日本語論文作成 B II

井波 真弓

サブタイトル：上級レベル

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2 | キャンパス：市ヶ谷

備考（履修条件等）：

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このクラスは、大学院で論文（修士・博士）を執筆するために必要なアカデミックな日本語の力を向上させることを目的とします。このクラスの対象とする学生は、すでにアカデミック・ライティングの基礎力があり、さらにすでにレポートや小論文のライティングの経験がある方です（原則として日本語能力試験（JLPT）のN1合格者とします）。

授業では、毎回、①論文を書くための表現を学び、②活動を行います。活動としては、学期の前半に「話す活動」（自分の論文の研究計画のプレゼンテーションと質疑応答）を行い、学期の後半に「書く活動」（4,000 字程度の論文形式で、自分の論文の概要を書く）を行います。

※第 1 回目の授業で、レベルチェックと面談を実施し、2 回目から授業が始まります。受講希望の方は、第 1 回目、第 2 回目の授業に必ず出席してください。

【到達目標】

受講者は、以下のことをめざします。

- ・日本語で、研究計画のプレゼンテーションがきちんとできるようになる。
- ・論文の序章・本論・結論の各構成要素を学び、適切な論文表現を用いて、自分の論文の概要が書けるようになる。
- ・論文執筆のために、自分が収集しなければならない資料や情報が何なのかを考えられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

学期の前半では、話す活動（自分の論文の研究計画をプレゼンテーションする）を行います。学期の後半では、書く活動（4,000 字程度の論文形式で、自分の論文の概要を書く）を行います。前半と後半の両活動を中間・期末テストの評価対象とします。それ以外にも、小テストや宿題があります。テキストは、指定のものを用いますが、それ以外にも受講者のレベルに応じて、別途、配布資料で指導します。

課題等の提出・フィードバックは「Google Classroom」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	課題作文と面接	レベルチェック
2	アカデミックな書き方 1	アウトライン作成に必要な基本事項 課題・目的の提示
3	アカデミックな書き方 2	定義 分類 図表の提示
4	アカデミックな書き方 3	変化の形容 対比と比較
5	アカデミックな書き方 4	原因の考察 列挙 引用
6	アカデミックな書き方 5	同意と反論 帰結 結論の提示
7	各自の研究論文 1	序論 (1)
8	各自の研究論文 2	序論 (2)
9	各自の研究論文 3	本論 (1)
10	各自の研究論文 4	本論 (2)
11	各自の研究論文 5	本論 (3)
12	各自の研究論文 6	結論 (1)
13	各自の研究論文 7	結論 (2)
14	発表・評価	発表・論文のまとめと解説を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

アカデミック・ジャパニーズ『改訂版 大学・大学院留学生の日本語④論文作成編』（2015）アルク（1,800 円+税）978-4757426344

【参考書】

石黒圭『留学生のためのここが大切文章表現のルール』（スリーエーネットワーク）

友松悦子『小論文への 12 のステップ』（スリーエーネットワーク）

二通信子『留学生のための論理的な文章の書き方』（スリーエーネットワーク）

二通信子『留学生と日本人学生のためのレポート・論文表現ハンドブック』（東京大学出版）

【成績評価の方法と基準】

授業参加度：20%

論文のアウトラインの提出と充実度：20%

各自の論文：40%

最終プレゼンテーション：20%

*欠席を 4 回以上すると単位は出ません。

【学生の意見等からの気づき】

アンケートは実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン

【その他の重要事項】

*授業の 1 週目、2 週目に出席してください。3 週目に初めて来る学生は、原則クラスを取ることができません。

【Outline and objectives】

The purpose of this class is to enhance the academic Japanese ability for writing a dissertation (master and doctoral). The subjects of this class are those who already have the basics of academic writing and have written reports and essays (in principle, those who have passed the N1 level of the Japanese Language Proficiency Test (JLPT)).

In each class, you learn the expressions for writing a dissertation and carry out activities. In the first half of the semester, you conduct a "speaking activity" (presentation of your dissertation research plan and Q & A), and in the second half of the semester, a "writing activity" (an overview of dissertation about 4,000 characters).

* Level check and interview are conducted in the first lesson, and the lesson starts from the second class. Students wishing to register to the class must attend the first and second lessons.